年度末報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2022 年 4 月 28 日
● 事　業　名　：　当事者会のピアサポート支援事業　生きづらさを抱えた者に対する当事者活動支援事業
● 資金分配団体　：　社会福祉法人　中央共同募金会
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
当事者活動の数、当事者会や家族会の支援者数が増え、最終的な受援者が増える	＜全国ネットワーク団体＞ 当事者会・家族会の会員数、研修への参加者数ホームページの閲覧数 ＜直接的な支援を行う団体＞ 活動の参加者数、相談者数	全国 6 ブロックにおいて、組織基盤が確立された当事者会、家族会が活動を行っており、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	コロナ禍の影響が続いていることにより、対面で実施する事業の計画的実施に支障をきたしている団体もあるが、オンラインに切り替えが可能な研修等については、各実行団体とも概ね計画どおりに進行している。 ＜認知症の人と家族の会＞ 交流会運営者のための交流･相談活動研修会が開催され 161 名が参加した。 また、この研修会を受け、8 支部が本人交	2

				流会を開催した。 また、当事者、家族、専門職の参加により全国 7 ヵ所でブロック会議が開催され、計 322 名が参加した。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会で活動するひきこもり経験者や家族などを対象とした「ひきこもりピアサポーター研修」を実施し、2021 年度は 49 名が新規認定者となった。 また、家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約 5 割、当事者の参加が増えた家族会が 32.6%となった。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ DV 被害を受けた母子による当事者活動に 49 名が参加したが、コロナ禍の影響により、思春期対象の企画および母と子対象の企画びーらぶは計画通りに実施することができない状況であった。DV 被害に関する電話相談件数は月平均 74.5 件と同水準となっている。当事者活動を支援する学生ボランティアの確保が課題となっている。	

当事者活動の数が増え、地域的な広がりが出る。	＜全国ネットワーク団体＞ 当事者会、家族会の会員における支援者数 ＜直接的な支援を行う団体＞ 団体の活動における支援者数	全国 6 ブロックそれぞれにおいて組織基盤が確立された当事者会、家族会と連携・協働している当事者会、家族会がひとつ以上設立されている状態	2023 年 3 月	コロナ禍の影響が続いていることにより、対面で実施する事業の計画的実施に支障をきたしている団体もあるが、オンラインに切り替えが可能な研修等については、各実行団体とも概ね計画どおりに進行している。 ＜認知症の人と家族の会＞ 交流会運営者のための交流･相談活動研修会が開催され、161 名が参加した。 また、この研修会を受け、8 支部が本人交流会を開催した。 また、当事者、家族、専門職の参加により全国 7 ヵ所でブロック会議が開催され、計 322 名が参加した。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会連合会＞ 家族会で活動するひきこもり経験者や家族などを対象とした「ひきこもりピアサポーター研修」を実施し、2021 年度は 49 名が新規認定者となった。 また、家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約 5 割、当事者の参加が増えた家族会が	2

				32.6%となった。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ DV 被害を受けた母子による当事者活動に 49 名が参加したが、コロナ禍の影響により、思春期対象の企画および母と子対象の企画びーらぶは計画通りに実施することができない状況であった。 今後事業に参加する当事者の中から団体運営にも関わってくれる人を増加させていくことが必要である。	
当事者が支援者となったり、当事者会を新たに立ち上げるなどで、当事者自身による発信の機会が増える。	当事者自身が発信した回数	全国 6 ブロックにおいて、組織基盤が確立された当事者会、家族会が活動を行っており、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	中間報告において「当事者自身が発信した回数」に見直したが、統計的に把握することが難しいため、具体的な事例等を抽出することで把握に努めたい。 ＜認知症の人と家族の会＞ 2021 年度世界アルツハイマーデーにおける認知症啓発ツールとして、認知症の人が撮影した写真をデザインし発行した。リーフレットの街頭での配布はコロナ禍で中止・縮小された分、新たな場所での配架を実施し活動の幅を広げた。また、認知症の人の写真展「記憶とつなぐ」を商業施設広場でトークショーとともに開催した。	2

				＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約5 割、当事者の参加が増えた家族会が32.6%となった。 また、他の家族会と交流や意見交換を実施したのは 74%となった。 4 割の支部がオンラインを利用し、コミュニケーションの機会を増やすことができたと回答した。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ DV 被害を受けた母子による当事者活動に 49 名が参加したが、コロナ禍の影響により、思春期対象の企画および母と子対象の企画びーらぶは計画通りに実施することができない状況であった。 DV 被害を受けた当事者自身の発信はハードルが高いが、個人情報に配慮した情報発信のあり方を検討する必要がある。	
活動の広がりや発信の機会増を通じて、当事者活動そのものの社会的認知が広がる。	マスコミやメディアに掲載された数、ホームページの閲覧数 の数	組織基盤が確立された当事者会、家族会において、常時新規相談の受付が行われ、ネッ	2023 年 3 月	中間報告において「マスコミやメディアに掲載された数、ホームページの閲覧数」に見直したが、統計的に把握することが難しいため、具体的な事例等を抽出することで	2

		トワークでの援助が行われている状態		把握に努めたい。。 ＜認知症の人と家族の会＞ 認知症支援のオレンジ色に全国の城やタワー・名所等をライトアップする事業は昨年より 10 カ所増え 112 ヵ所となった。また、コロナ禍の中で新たな認知症啓発活動として始めた「Live!ライトアップ 2021」は 23 カ所を中継・YouTube 配信し、3,377 件の視聴を得ている。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ ひきこもりピアサポーター研修認定のインタビュー動画をホームページに掲載等により、ホームページの閲覧者数や SNS でのシェア数が増加傾向である。 また、研修や講演会においてピアサポーターとしての体験発表の依頼も増加していることから、ピアサポート活動に対する認知が広がっている。 ＜女性ネット Saya-Saya＞ 新型コロナウイルス感染拡大下において、DV 被害が社会問題として認知され、ニュースにも取り上げられる機会が増加したことにより	

				DV 被害者支援を行う（当事者）団体といった認知が広がっていると考えられる。	
当事者活動同士の連携協働数が増える。	異なった課題に取り組む当事者会や家族会における連携協働数	異なったブロック間、または課題を超えたネットワークが構築され、機能しており、他の地域や活動に対して開かれている状態	2023 年 3 月	中間報告において「異なった課題に取り組む当事者会や家族会における連携協働数」に見直し、達成状況を確認した。 ＜認知症の人と家族の会＞ 当事者、家族、専門職の参加により全国 7 ヵ所でブロック会議が開催され、計 322 名が参加した。 近隣支部との情報交流や「介護家族支援」を再考することができ、日々の活動に弾みをつけた会議となった。 ＜KHJ 全国ひきこもり家族会連合会＞ 家族会やピアサポーター同士の交流の活性化により会員数が増加した家族会が約 5 割、当事者の参加が増えた家族会が 32.6%となった。 また、他の家族会と交流や意見交換を実施したのは 74%となった。 4 割の支部がオンラインを利用し、コミュニケーションの機会を増やすことができたと回答した。 ＜女性ネット Saya-Saya＞	2

				新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、ＤＶ被害を受けた母子からの相談内容が、緊急的に支援が必要と判断するケースが増えため、専門機関との連携機会が増加した line 相談で、親からの虐待で希死念慮の高いと判断したケースについて、数カ月間かけて信頼関係を構築し、line 相談から電話相談、直接面談へと移行、さらには被害者をステップハウスに入居させ、最終的には医療機関に繋げたケースがあった。	

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
ネットワークのプラットフォーム化を活性化するために、自立して地域の社会福祉協議会との連携や、都道府県共同募金会からの助成、企業へのファンドレイジングとの関	・都道府県共同募金会からの助成実績 ・企業からの寄付実績 ・地域の社会福祉協議会との連携実績	全国団体に対して助成を行うことにより、組織基盤が確立された当事者会、家族会について、各指標において数の増が見られる状態	2023 年 3 月	・都道府県共同募金会と連携した実行団体支部におけるファンドレイジング実績：2 団体（支部）・497,912 円（2022 年度） ・都道府県共同募金会から実行団体支部への助成実績：のべ 44 事業・10,438,632 円（2022 年度実績） ・企業から実行団体への寄付やボランテ	2

係づくりが行えるようになる状態。				ィア件数：1 件（2022 年度） ・全国ネットワーク組織の支部と地域の社会福祉協議会との連携実績の増加に向けた広報活動を展開する必要がある。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☑短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.非資金的支援の活動に関する報告
「休眠預金等を活用した当事者会のピアサポート支援事業」実行団体第 1 回意見交換会　https://www.akaihane.or.jp/news/24475/ 「休眠預金等を活用した当事者会のピアサポート支援事業」実行団体第 2 回意見交換会　https://www.akaihane.or.jp/news/25766/
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・コロナ禍により当事者やその家族が繋がりを絶やさないよう、昨年度の新型コロナウイルス緊急助成活用によるオンライン環境整備によって、各地でオンラインによるピアサポート支援や支援者の研修会が展開された。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全ての実行団体が当初計画の見直しを行うなかで、団体がめざす目標に対して事業・活動が行えるよう資金の使いみちを柔軟に対応した。 ・実行団体の取組みを SNS で発信するとともに、実行団体の事務における進捗状況に応じて、濃淡をつけながらもオンラインでサポートを行った。

・実行団体の組織基盤をより強固にするため、本会および都道府県共同募金会が行う各種助成事業の周知を図るとともに、都道府県共同募金会と実行団体の支部が協働し、団体自らが社会課題を訴え寄付を募るテーマ型募金が 2022 年 1 月～3 月展開された。
・実行団体における企業連携を見据え、2021 年 12 月に「with コロナ時代を支える社会貢献セミナー～新たな社会的孤立の現状と「誰一人取り残さない」地域共生社会の実現に向けて～（仮）」がオンライン開催され、実行団体含めた参加者が企業と交流を深めた。
・企業から特定の実行団体に対するボランティアの申し出があり、両者のニーズを確認し実現に向けた調整や場づくりをオンラインで行った。
・実行団体の連携・協働およびファンドレイジングをサポートするための場づくりとして、実行団体同士の意見交換会を 2 回実施した。
・実行団体との個別面談に加えて、事務的事項に関して実行 3 団体への説明会を実施した。

① 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　☐広報制作物に表示している ☑報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 3.報告書等 中央共同募金会令和 2 年度年次報告書（P35） https://www.akaihane.or.jp/wp/wp-content/uploads/96b977a6a9f631d84445b2da6493b926.pdf 4.イベント開催等（シンポジウム・フォーラム等）

④規程類の整備に関する報告

1.　規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
2.　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐はい　☑いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：特に変更なし

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☐内部に窓口を設置　☑外部に窓口を設置　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか

☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☐はい　　☑いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：倫理・コンプライアンス規程の第 8 条 3 項により、コンプライアンス委員会は違反事例が判明してからの開催としており、違反事例が発生していないため
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☑外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

zoom.us ミーティング 表示 編集 ウィンドウ ヘルプ
3月24日(木) 12:06
Zoom ミーティング
レコーディング...
表示
上田理香@事務局
中央共募 笠川
赤い羽根共同募金
牧森 由美子
戸石（中央共同募金会）
AAJ Matsuyo kamada
基金事業部
奎の会リーラ 市川 乙允
鈴木 森夫（認知症の人と家族の会）
三木敦子（認知症の人と家族の会）
佐藤恵子@KHJ本部事務局
ミュート
ビデオの停止
セキュリティ
参加者
チャット
画面の共有
レコーディングを一時停止／停止
ブレイクアウト ルーム
リアクション
アプリ
退出
実行団体の意見交換会